

公益社団法人白河青年会議所

2022 年度 事業方針



第 64 代理事長 小磯 祥晃

スローガン

開雲見日

～次代を拓け！白河 J C！～

～はじめに～

2021 年は、東日本大震災から 10 年という節目の年でありました。そして、2019 年末から始まった新型コロナウイルス感染症の流行という未曾有の事態となり、私たちの故郷「しらかわ」地域にも大きな影響を与えました。我々自身も青年会議所の事業や運動を行うにあたり大きな壁にぶつかる事となりました。しかし、その中にあっても試行錯誤を繰り返し、決して諦めたりせず、常に前を向き、歩みを止めず活動してまいりました。それは、様々な災害や天災を乗り越えてきた諸先輩方の挑戦の歴史、新しい道理や知識を探りながら、苦境にあっても挑戦を諦めない青年の姿に学び、60 年以上にわたり積み重ねられた、白河青年会議所の脈々と受け継がれる熱き魂があったからではないでしょうか。

2022 年、白河青年会議所は、1959 年の創立より 64 年目を迎えます。諸先輩方が築き上げた白河青年会議所を次代へと繋いでゆくためには、この大きな時代の変化の中にあっても、我々ひとりひとりが青年らしく生き活きと躍動し、地域のリーダーとして輝いていく必要があります。それは、ひとりの努力で成り立つものではありません。互いに思いやりを持ち、尊重し、助け合い、一致団結していく事、そして利他の心を持つことが大切です。白河青年会議所は、ひとりひとりが魅力ある青年として、地域の皆様に寄り添いながら、時代や地域のニーズを捉え、一致団結し熱い魂を持って、次代を切り拓く活動を展開して参ります。

～魅力あるまちづくり～

コロナ禍により急激に推し進められたデジタルトランスフォーメーション、インターネット会議やテレワークの実践、過密を避ける考え方により、働き方や生活様式等、人々の価値観が大きく変わりつつあります。田園回帰という言葉がございます。過密な都市部から、地方へと移住する思想ですが、今、コロナ禍という情勢によってもたらされた人々の生活様式の変化にともない、田園回帰の傾向が高まっております。

私たちが活動する「しらかわ」地域は白河市、西郷村、泉崎村、中島村、矢吹町の5市町村からなっており、この故郷「しらかわ」には、小峰城をはじめとする歴史や、豊かな自然を活かした観光資源、風土に根差した民芸や食文化など様々な魅力があります。また、東北自動車道、東北新幹線も通り、交通インフラにも恵まれており様々な企業が事業所を構える要衝とも言えます。

しかし、私たちの故郷は人口減少等様々な問題も抱えております。持続可能な地域経済を築き上げていくことは、東京の一極集中の是正につながり、地方分散のきっかけとなるはずですが。そのためには、新たな地域財の発掘、地域交流の機会の創出、地域の魅力を内外に知ってもらう発信が必要と考えます。故郷「しらかわ」のために、私たちだから出来る魅力あるまちづくり、私たちだから出来る地域振興を行って参りましょう。

～共創するひとつづくり～

我々を取り巻く現代の環境は、温暖化等による気候変動による記録的大雨の発生や、30年以内に起きるといわれている南海トラフ地震など、いつどのような災害が起こりうるか予測できない状況であり、さらには、感染症の蔓延等、これまでになかったような数多くの課題に直面しています。

またそして、我々青年会議所は、国連が定める2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す開発目標SDGsを推進しております。

そういった状況の中、次代を担うひとつづくりにおいては、様々な社会の課題とSDGsとのつながりを知り、持続可能な社会を築くためには、何をしたらいいのか、自分はどうのように目標達成に貢献できるかを考えられる人財を育成する必要があります。それが、自然環境の維持であったり、災害時における行動においてのみならず、地域経済や文化の発展においても、大切なのは自分さえ良ければいいという考え方ではなく、他者と共により良いゴールを目指す事が、最大多数の最大幸福のより良い未来を切り拓く事に繋がるからです。次代の人財の育成、様々な機会を創出する為には、地域の皆様に共創をお願いする事もあるでしょう。持続可能な地域社会の実現、強靱なしらかわ地域のために、共創するひとつづくりに挑戦し、より良いゴールを共に目指しましょう。

～継承する拡大～

本年も、会員拡大への取り組みは大きな課題の一つです。2023年には白河青年会議所は65周年を迎えます。65周年に向け強固な結束を作る為、次代の組織づくりのために、会員拡大は急務と言えるでしょう。そして、会員拡大だけでは無く、全メンバーが当事者意識を持ち、他人事ではなく自分事として支え合いながら、共に歩みを進める事が、より強い結束と会の持続性の為に必要と考えます。

白河青年会議所には、多種多様な業種にて活躍する、個性豊かなメンバーが在籍しており、ひとりひとりの意外な才能や熱い心意気に感心させられることも多々あります。そんなメンバーたちをより輝かせ、より活躍する機会を作る為には、様々な学びの機会を創出し、成功や失敗と言った希少かつ貴重な体験を積み重ねる事が重要です。言わば、内なる拡大です。

メンバーひとりひとりが成長し、発言する勇気、挑戦する勇気を持てば、その豊かな個性から多種多様な

運動が生まれると信じております。また、そういった活動を時代に合わせた手法で発信していく事で、地域の中でひととき魅力のある青年団体として認識されていく事が出来るでしょう。それが、自然と会員拡大につながると私は信じています。会員自身の内なる拡大と、時には垣根を超えた外への拡大を通じ、多様な人財が活躍する団体・地域を目指し、共に楽しみましょう！

～礎となる組織～

組織が高いパフォーマンスを持ち、地域の内外に活躍の幅を広げて行く為には、まずはその幹や根がしっかりとしていなくてはなりません。最高の意思決定である総会や各種会議の運営等をしっかりと行い、会員会費や各種補助金等からなる会の事業費を財務管理し運営そのものに真摯に取り組むことは、白河青年会議所の歴史の積み重なりであり、受け継がれてきた「信条」とも言えます。

しかし、変化の時代の中では、組織を存続させるためにも様々な変化が求められており、これからの組織作りには、将来を見据えた「戦略総務」を実践し、組織を取り巻く環境の変化やニーズに合わせたよりよい創意工夫を戦略的に組織に提案していくことが求められています。その為には、内外にアンテナを伸ばし多方面から情報を収集し、様々なアイデアを、より多角的な目線で吸収する必要があります。吸収した物から小さな工夫を積み重ねる事が時代に合わせた組織づくりに繋がり、多様性を持った人財を育む土壌となると考えられます。

諸先輩方に敬意を払い、受け継がれてきた「信条」を忘れず、幹や根としての強さだけではなく、時代の変化に柔軟に対応する「しなやかさ」を持って次代を見据えた運営を実践して参ります。

～むすびに～ひとりの青年として

大きな変化の時代の中、我々青年世代には多くの事が求められていると感じます。それは、自身の経済活動、地域貢献など、地域のオピニオンリーダーとして変革の旗手となる必要があるからです。

誰かがやらなくてはならない。では、誰かがやってくれたならそれで終わりなのでしょうか。進もうとする者、誰かの期待を超えようとする者は、何度も失敗をしたり、挫折をしたりする事でしょう。そのたびに泥の中から立ち上がろうとするでしょう。それを眺めているだけでいいのでしょうか。時には手を取り支え合い、時には切磋琢磨し、共に泣き、共に笑う。心が折れそうな時に歯を食いしばる信念を、誰かが挫けそうとき手を差し伸べる勇気を持ちましょう。

青年活動の中には、臆してしまう場面も多くあるでしょう。迷う時は挑戦する心を思い出してほしい。青年に期待する人が居る。それは、その困難が青年をより輝かせてくれると信じているからです。

我々青年会議所の失敗を恐れないポジティブな挑戦の姿勢は、組織において成長の機会となります。地域の青年団体ひいては地域活動における、地域交流、地域活性、地域発信の強い力になる事ができます。挑戦する事のプロセスを楽しみましょう。失敗したとしても、成功したとしても、多くの学びを得る事ができます。それが新たな運動の火種となり大きな光として未来を照らす事でしょう。

青年会議所に在籍していただける時間には限りがあります。誰かがやらねばならないのなら、誰かに任せろのではなく「私たち」でやろう！暗雲を切り拓く光芒のごとく！